

令和6年度 第2回相生小学校運営協議会 会議録（要点記録）

（敬称省略）

- 1 開催日時 令和6年9月10日（火） 13時20分から15時50分
- 2 開催場所 相生小学校 多目的室
- 3 出席委員 小杉 思主世、大谷 一雄、廣野 篤男、水谷 加寿代、原 隆之
中川 有香（学校支援コーディネーター）、森田 賢児
鈴木 麻衣子（学校支援コーディネーター）
- 4 欠席委員 長澤 秀幸、伊藤 大輔
- 5 オブザーバー 神谷 匠（東部協働センター）
- 6 学校関係 小林 延和（校長）、鈴木 滋雄（教頭）、鈴木 由香（主幹教諭）、
村上 友香（CS担当教諭）、伊藤 龍彦（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 伊藤 龍彦
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について意見を求めたところ、鈴木委員が本日の議事を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- （1）主体性を育むために必要な支援について
- （2）その他喫緊の課題

11 会議記録

司会の村上教諭から、委員総数10人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）主体性を育むために必要な支援について

議長の指示により、鈴木主幹教諭から、別紙資料に基づき、令和6年度相生小学校の目指す子供像や各部の取り組み、授業参観での相生スタンダードについて、説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 授業参観をして、タブレットを使って効率よく、自ら進んで、やっている様子が見られた。楽しそうにやっており、学習意欲の高まりを感じた。（鈴木委員）
- ・ 子供たちがタブレットに集中して使っていると感じられた。（会長）
- ・ 去年、ボランティアとして参加し、家庭科の学習で製作物を作って、写真を撮ってまとめる活動を見た。興味のある子は、どんどん進めていけるが、子供によって固まってしまっている子も見受けられ、気になった。（中川委員）
- ・ 遅れている子のサポートについては、まだ、依頼を受けていないが、風の子・太陽の子応援団として、支援が必要な子へのサポートもできるかもしれない。（鈴木委員）
- ・ 子供たちは、タブレットに慣れている。打ち込みも早く、落ち着いて勉強している感じではあるが、反面、文章を書かなくなったため、漢字がうまく書けないとか、面倒くさいとか、地道に漢字を書く力とか、学習をしていくことが大切である。基礎的な力を付けていく必要がある。（大谷委員）
- ・ タブレットを使っていることによる効果は、どう考えているか？（鈴木委員）

- ・ タブレットは道具の一つであり、漢字はペンタッチで取り組むことができる。タブレットを使うことによって、発表が苦手な子が、自分の思いを表現することができるのは、良さの一つである。しかし、タブレットの使い方については、課題が多いと考えている。
(校長)
- ・ 教室を飛び出してくる子が見られなかった。問題行動が、減ったのですか？(鈴木委員)
- ・ あまり変わっていないと思います。タブレットを使うことにより、得意な子が増えている現状はある。低学年でも、使いだすとあっという間に上達してきている。
(校長)
- ・ 授業参観をみて、和気あいあいとしていると感じた。主人が、1学期に地域の交通安全を語る会に参加したが、子供たちが意見をタブレットにその場で入力し、発表していてすごいと話していた。
(水谷委員)
- ・ 協働センターには、何か問い合わせとかありますか？
(鈴木委員)
- ・ 特にありません。なりすましか、情報流失とかの問題はあるが、情報交換をしていきたい。
(東部協働センター神谷)
- ・ 個人情報の流失については？
(鈴木委員)
- ・ 現状、流失はない。モラルの問題はあるが、スマホ等の利用は懸念される。子供たちにどのように使うのか、利用していくのかを指導していくことが大切だと考えている。
(校長)
- ・ 学校のタブレットでインターネット接続は、どのように管理されているのか？
(中川委員)
- ・ 自由ではないが、時間を決めて使っている。有害なものは、見れない設定にしているが、子供たちが、結構自由に使っている。使っていいもの、いけないものがある。学校でも指導するが、家庭でも。
(校長)
- ・ 家庭科のサポートで感じたが、タブレットを使って、子供たちの完成品の提出に役立っている。
(会長)
- ・ 授業参観を通して、子供たちが、素直でうれしかった。自らあいさつができるということは、主体性だと思う。能登半島募金を子供たちが、主体的に取り組んでくれたことは、うれしかった。
(森田委員)
- ・ 図書ボランティアで感じたのは、知ってる顔の人にはあいさつするが、知らない人にはあいさつできない。何回もボランティア活動に参加していくと、あいさつが広がっていくのではないかと。
(鈴木委員)
- ・ 最近、朝のあいさつは、5人中1人くらい、あいさつしてくれる。
(原委員)
- ・ 知らない人には、声を掛けてはいけなさと、家庭で話すこともある。旗振りの人くらいには、あいさつをしても良いのではないかと。本来は、家庭教育の一環だと思うので、自分たちも心掛けていかないといけない。
(森田委員)
- ・ コロナ禍の影響も大きい。不審者の問題もある。人と人の出会いは、あいさつだと思う。面白いことに、アンケートでは、子供たちは、やっているつもりでいる。
(校長)
- ・ あいさつは、当たり前、親がどう感じているのか。
(水谷委員)
- ・ 私たちもあいさつをしっかりしていきたい。あいさつプラス一言をそえていきたい。
(会長)

・ 一方通行だけど、あいさつをしていきたい。 (原委員)

・ 学校・家庭・地域で同じ歩調でやっていくことが、大切ですね。 (校長)

熟議の結果、全員異議なく、これを承認した。

(2) その他喫緊の課題

校長から、子供の放課後トラブルについて説明があり、委員からは、以下の発言があった。

・ 熱中症の心配で、運動場使用を制限したら、トラブルが減少してきた。人との関わり方を身に付けて欲しい。 (校長)

・ どの程度のトラブルがあるのか？ (森田委員)

・ すぐにいじめにつながっていく。子供たちの中で、対応力（解決できる力）が落ちてきている。いじめの定義については、前回説明させていただきましたが、後に引きづらないように。厳しい世の中になっている。 (校長)

・ トラブルを解決する力が落ちていると思う。 (会長)

・ 親の立場として、人の子供に関わらないことはよくある。 (中川委員)

・ 昔は、ちゃんとしなさいと言っていたが、今は見えない。深く立ち入ってこない。面倒くさいと思っている人もいるかもしれない。 (水谷委員)

・ 今は、複雑で不安定な状況だからこそ、地域もやっていくべきだと思う。 (森田委員)

・ 家、地域、学校でのそれぞれのルールを作って、やってきている。それぞれのルールに基づいた注意をする必要がある。同じ認識で取り組んでいくとが大切ですね。(鈴木委員)

・ 親も地域もしっかりしないといけない。 (会長)

・ 子供たちが、CSで、いろいろな人と関わることは、良い経験をさせていただいている。 (校長)

・ 言葉で伝わらないから、手が出てしまう。 (鈴木委員)

・ 今は、同級生のつながりが多く、上下のつながりが少ない。小学生より中学生の方が、あいさつがしっかりできているように感じる。 (大谷委員)

・ 異学年交流もやっているんで、いろいろな人とのつながりが必要だと思う。(鈴木委員)

・ 先生たちも敏感になり過ぎて、気を遣いすぎだと思う。 (会長)

・ 敏感になり過ぎるくらいにやらないといけない。一生引きずっていく話だと思う。そこは、学校として、注意していかなければいけない。 (校長)

その他の報告事項等

学校支援コーディネーターより、資料に基づいて、CSボランティア活動の報告があった。

司会から次回学校運営協議会は、11月7日(木)13:20~15:30 多目的室にて開催する旨の報告があった。